

豊川市防犯に関する意識調査について

1 アンケート概要

目的	● 豊川市では、令和6年度に防犯対策・犯罪被害者等の支援・再犯防止に関して、市等が実施する施策を総合的かつ計画的にする推進するための計画を策定予定。 ● 本調査は、当該計画を策定する際の基礎資料とすることを目的に実施。
方法	郵送配布 郵送回収またはインターネット回答
対象	2,000人 ※年代、性別で均等配分 ※居住地域(10地域)別の人口構成比 ※住民基本台帳から抽出
対象年齢	18 歳以上
調査期間	令和5(2023)年11月10日(金)～同月30日(木)
回収数	1,193 件(紙回答は 869 件、Web 回答は 324 件) / 59.7%

2 アンケート結果

■防犯対策について

問7 住んでいる学区内の治安について全体では「良い」、「まあまあ良い」の合計は77.7%。その内、中学女兒と、中学卒～18歳までの女兒を同居家族に持つ場合、「良い」、「まあまあ良い」の合計は69.0%、69.8%と全体より低くなる。

問8 住んでいる学区内の治安が悪いと思う理由(複数回答可)は、「防犯カメラや街灯が少なく防犯対策が不十分と感じるから(54.0%)」が最も高く、次いで「近所で、空き巣や車上ねらいなどの犯罪が発生したから(35.6%)」、「警察によるパトロールを見かけないから(30.1%)」。

問9 自身や家族が被害にあうのではと不安に感じている犯罪について(複数回答可)、「不安」、「やや不安」の合計は、「住宅を対象とした侵入盗(空き巣など)(67.4%)」が最も高く、次いで、「特殊詐欺(オレオレ詐欺、還付金詐欺、架空請求など)(64.0%)」、「乗物盗(自動車盗、バイク盗、自転車盗など)(63.9%)」。

問11 施錠について「外出時の玄関や勝手口(1.5%)」、「外出する時の窓(4.6%)」、「自転車を停めてその場を離れる時(3.8%)」は、1時間を超えてその場を離れる場合も施錠していない。

問 15 防犯ボランティア活動に参加していない人が参加する条件（複数回答可）は、「参加するつもりはない（参加出来ない）40.6%」が最も高く次いで、「都合の良い時だけ参加すれば良いなど、気楽に参加できる（39.4%）」、「実施する内容が簡単（21.0%）」。

問 16 防犯ボランティア活動の効果についての感想は、「効果があると思う」と「ある程度効果があると思う」の合計が、77.2%。

問 19 犯罪のない豊川市の実現に向けて特に必要だと思う取り組み（複数回答可）は、「市・警察の防犯パトロールの強化 67.7%」が最も高く、次いで「防犯灯など街灯の設置促進（60.7%）」、「地域・通学路等の公共空間への街頭防犯カメラの設置促進（49.1%）」。

■再犯防止について

問 27 犯罪や非行をした人の立ち直りに、行政機関と地域が一体となって取り組むことについて、「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」の合計が、81.9%。

問 30 犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思うかは、「協力したいと思う」と「どちらかといえば協力したいと思う」の合計が、24.3%。「わからない」が36.1%。

問 33 再犯防止のため、豊川市はどのような取組が必要か（複数回答可）は、「資格、技術の習得など仕事に就くための支援（50.4%）」「相談しやすい環境の整備（45.9%）」「非行した少年の修学支援（29.8%）」。

■犯罪被害者等支援について

問 21 犯罪被害者等支援への関心は、「非常に関心がある」「ある程度関心がある」の合計が、62.9%。

問 23 犯罪被害にあった時、利用できる窓口として知っているものは、「豊川警察署（81.6%）」で最も高く、その他の窓口（市の窓口や専門窓口など）はあまり知られていない。

問 24 市が取り組む必要があると思うもの（複数回答可）は、「医療に関する支援（66.5%）」、「相談しやすい環境の整備（57.3%）」、「経済的な支援（50.9%）」